

十日赤みえ

Mie + 130th
Anniversary
Since 1889



2019年度

おかげさまで 日本赤十字社三重県支部は 創立130周年を迎えました

日本赤十字社三重県支部 創立130周年記念大会



CONTENTS

特集 日本赤十字社三重県支部創立130周年記念事業が行われました！

- 伊勢湾台風から60年
- 令和元年台風第19号災害への対応
- 平成30年度収支報告
- 赤十字の「活動資金」と「義援金」の違い
- 伊勢市大湊町防災訓練に参加しました
- 「NHK海外たすけあい」にご協力いただきありがとうございました
- 子どものカゼ・インフルエンザには要注意！
- 四日市献血ルーム「サンセリテ」移転開設！
- あなたの「救いたい」思いを赤十字に 一遺贈・相続財産等のご寄付一

30周年記念事業が行われました！

日本赤十字社展

10月19日（土）から11月4日（月）にかけて三重県総合博物館 MieMu にて「日本赤十字社展－赤十字人道の軌跡－」を開催し、赤十字の歴史やこれまでの活動を貴重な資料や写真、グラフィックパネルなどで展示しました。

「赤十字の誕生」

赤十字事業の創始者アンリー・デュナンを描いた『ソルフェリーノの啓示』や、日本赤十字社の前身である「博愛社」の設立請願書など、赤十字の誕生にかかる貴重な資料等を展示しました。



「血液事業のあゆみ」

血液事業のこれまでの歴史とともに、三重県での取り組みを振り返りました。献血の意義や必要性についてパネルや資料でご覧いただき「生命の大切さ」や「助け合い」について学んでいただきました。



「救護活動の歴史」

世界の赤十字社の中で初めて行なわれた平時の災害に対する救護活動「明治21年磐梯山噴火災害」の記録や、救護活動に従事する赤十字看護婦の養成に関する資料など、これまでに起きた災害に対する赤十字活動の歴史を展示しました。



特別展「平成の災害と赤十字」

平成の約30年間に起こった災害と日本赤十字社が行ってきた救護活動について、救護の現場で実際に使用している資機材、救援物資、救護日誌等の写真などにより振り返る特別展を併せて開催しました。



鈴木知事にもご来場いただきました。



- 約2,000名の方にご来場
- いただき日本赤十字社の
- 人道的活動について理解
- を深めていただきました。

赤十字展関連イベント

「日本赤十字社展」の関連イベントとして「赤十字親子で学ぼう！」と題し、子どもたちや保護者の方に日本赤十字社を知っていただくイベントを実施しました。

「キッズ献血セミナー」

赤十字が災害救護活動の際に実際に着用しているものと同じデザインの救護服、白衣やワンピース型のナース服を準備し、試着した子どもたちに記念撮影をしていただきました。また、親子で献血の大切さについてクイズ形式で学んでいただきました。



「無線体験」

アマチュア無線機器などの展示、親子で糸でんわや無線機を使った通信体験などを行い、電波の不思議や無線の魅力について楽しく学びました。



「とっさの手当の体験」

救急車が来るまでに勇気をもって行動ができるよう、親子で応急手当を体験してもらいました。



「点字体験」

子どもたちに点字のルールを説明した後、点字器を使って自分の名前や好きな文字を打った自分だけの「オリジナルしおり」作りに挑戦してもらいました。



「スタンプラリー」

日本赤十字社展でスタンプカードを貰い、赤十字の各ブースで学んでスタンプを集めた子どもたちには、けんけつちゃんの缶バッジのプレゼントやハートラちゃんのプラ板キーホルダー・おめん作りなどのワークショップを楽しんでいただきました。



- 5日間で280名のご家族連れにご参加
- いただきました。



「日本赤十字社三重県支部創立130周年記念事業」は、次の140周年に向けて歴史の新たな1ページとなりました。これまで支えてくださった県民ならびに赤十字関係者すべての皆さまに改めて感謝申し上げますとともに、今後も皆さまのご期待に沿えるよう創意と情熱をもって赤十字事業の更なる推進に努めてまいります。

伊勢湾台風から 60 年

伊勢湾台風災害への対応



救護にあたる医師と看護婦

昭和 34 年 9 月 26 日紀伊半島南端に上陸した台風 15 号(伊勢湾台風)は、午後 7 時 37 分に津気象台開設以来の瞬間最大風速 51.3m を記録し、台風災害としては明治以降最多の死者・行方不明者 5,098 人という被害をもたらしました。通信及び交通が途絶え、発災当初は思うように救護活動ができませんでしたが、日本赤十字社はいち早く救護班を出動し、各府県に救援を呼びかけました。

三重県下の被害状況は、死者・行方不明者 1,281 人、負傷者 5,688 人、家屋全壊 5,346 棟、流失 1,359 棟、半壊 17,585 棟という大きなものでした。三重県支部は、山田赤十字病院(現伊勢赤十字病院)と鈴鹿赤十字病院(閉院)から救護班を最大限に派遣しました。しかし、それでも不足が生じたため、大阪、和歌山の両府県に救護班の応援を要請し、あわせて 429 個班 1,804 人の救護員が 9 月 27 日から 12 月 14 日にわたる長期間、28,725 人の救護にあたりました。



舟艇での救護活動

今年度行った伊勢湾台風に関する主な活動

三重県では、伊勢湾台風が襲来した 9 月 26 日を「みえ風水害対策の日」と定めています。当支部においても、伊勢湾台風から 60 年に際し、次のような活動を行いました。

「伊勢湾台風 60 年の集い・みえ」への参加

9 月 21 日、「伊勢湾台風 60 年の集い・みえ」が四日市市で開催されました。三重県支部では、伊勢湾台風での救護活動について、写真を通して振り返るパネルの展示や、当時の救護用品の展示等を行い、過去の風水害で得た教訓を風化させることなく次世代へ継承することを目的に防災・減災を広く県民に啓発しました。

無線奉仕団が通信訓練を実施

9 月 1 日、三重県の伊勢湾台風 60 年防災訓練に合わせて、日赤三重無線奉仕団が通信訓練を実施しました。三重県の防災訓練のメイン会場でもある木曾岬町役場を key 局とし、県内各地の無線奉仕団員と無線により交信し、情報収集を行いました。



令和元年台風第 19 号災害への対応

概要・日本赤十字社の対応

10 月 6 日に南鳥島近海で発生し、急速に発達して猛烈な台風となった台風第 19 号は、強い勢力で静岡県に上陸した後、関東甲信地方と東北地方を通過し、東日本と東北地方を中心に広い地域で記録的な大雨をもたらしました。

被害状況(消防庁HPより(12/12時点))

人的被害

死者・行方不明者	102 人
負傷者	484 人



(阿武隈川支流の被災状況)

住家被害

全壊	3,081 棟
半壊・一部損壊	51,282 棟
床上・床下浸水	37,289 棟



(患者搬送支援を行う救護班)

これに伴い、日本赤十字社は各都道府県から救護班・こころのケア班を派遣したほか、救援物資の配布、赤十字ボランティア活動、義援金の募集などを行いました。

※詳細は日本赤十字社ホームページを参照(http://www.jrc.or.jp/domestic_rescue/191108_005908.html)

長野県にこころのケア班を派遣

10 月 25 日(金)から 29 日(火)まで三重県支部こころのケア班 5 名を長野県へ派遣しました。三重県支部の主な活動地域は南部の避難所となっている運動公園・小学校で、長引く避難生活により心身ともに疲弊している方に対して、健康状態や悩みを聞きながらのこころのケア活動を行いました。



長野県で災害ボランティア活動を実施

10 月 22 日(火)から 23 日(水)まで奉仕団員 10 名と職員 2 名を長野県長野市へ災害ボランティアとして派遣しました。ボランティア活動は、長野市北部災害ボランティアセンターで指示を受け、千曲川の氾濫で洪水となった同市穂保周辺の被災家屋にて行い、3 人 1 組で泥土撤去や家財清掃作業などを行いました。



《災害ボランティアに参加した奉仕団の方の声》

私たちの班は、食器や靴などの洗浄、家屋内の清掃等を行いました。活動後、住民の方は、感謝の言葉とともに、「まだまだ手伝ってほしいというのが本音です」ということも仰っていました。また、周辺の畑などはほとんど手つかずの状態であったことから、今回の災害ボランティアだけでなく、長期的な支援が必要だと感じました。(いなべ市地域奉仕団委員長 二之湯昭子)



三重県支部での主な義援金受付状況(12月末時点)

令和元年台風第 15 号災害義援金 555,684 円

令和元年台風第 19 号災害義援金 9,286,903 円

お寄せいただいた義援金は、被災状況に応じて按分され、全額を被災された皆さまにお届けいたします。

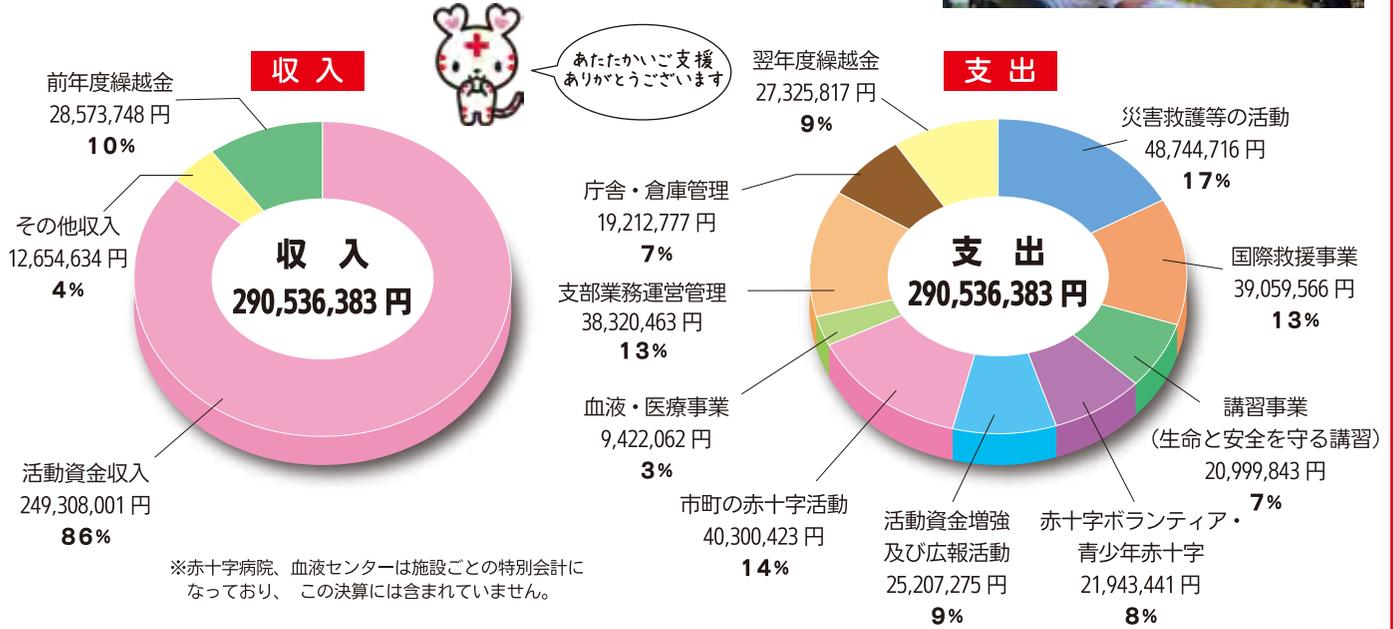
多くの団体、個人の皆さまから義援金をお寄せいただきました。(写真は津市立東観中学校からの令和元年台風第 19 号災害義援金贈呈のようす)



日赤三重県支部の活動資金にご協力いただきありがとうございました

平成 30 年度収支報告

支部・管下施設の平成 30 年度収支決算については、6 月 7 日（金）に開催された評議員会において審議の後、承認されました。県民の皆さまからの温かいご支援により、平成 30 年度も赤十字活動を展開することができました。心より感謝申し上げます。



赤十字の「活動資金」と「義援金」の違い

【活動資金】

日本赤十字社

皆さま

赤十字の活動は活動資金によって支えられています

災害時の活動

- ・医療救護
- ・こころのケア
- ・救援物資の配布等

平時の活動

- ・救急法等講習普及
- ・青少年赤十字
- ・ボランティア育成等

協力方法

○インターネットの場合

日本赤十字社三重県支部 HP 内「赤十字活動資金の協力方法」よりお手続きください。

右記 QR コードまたは下記 URL からアクセスをお願いいたします。

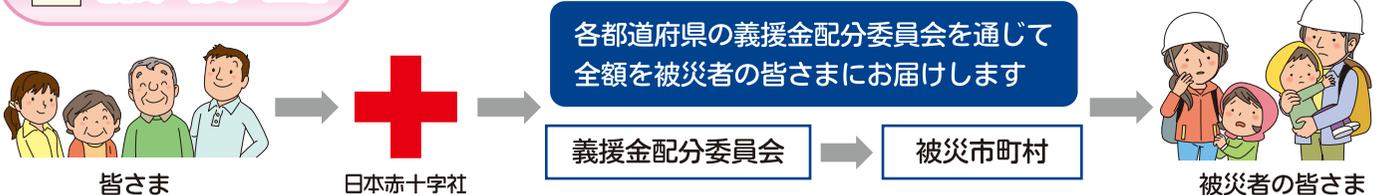
<https://www.mie.jrc.or.jp/entry/index.html>



○郵便振替・銀行振込の場合

赤十字の活動資金は、各市町の赤十字担当窓口または三重県支部で受け付けております。また、郵便振替、銀行振込などご協力いただける方は、送金手数料免除の振込用紙がございますので日本赤十字社三重県支部（059-227-4145）までお問い合わせください。

【義援金】



協力方法

義援金募集情報については、日本赤十字社の右記 HP をご覧ください。 <http://www.jrc.or.jp/contribute/help/>

伊勢市大湊町防災訓練に参加しました

11月24日(日)、伊勢市立大湊小学校の児童の皆さんを対象に行われた「大湊町防災訓練」に、日本赤十字社三重県支部が参加しました。

1～3年生は、「風水害」をテーマに、風水害の恐ろしさと、それに対してどのようにいのちを守るのか講義で学びました。

4～6年生は、チーム別に分かれて三角巾の結び方・ほどこき方、毛布を使用した担架搬送を競技方式で学ぶ「救急法リレー」を行いました。

参加した児童の皆さんは、それぞれのプログラムを楽しみながら、防災に対する知識や技術を深めました。



「NHK 海外たすけあい」にご協力 いただきありがとうございました

NHK 海外たすけあいキャンペーンは、国際赤十字創設 120 周年、NHK テレビ放送開始 30 周年という記念すべき年であった昭和 58 年(1983 年)にはじまりました。現在まで 37 年という長きにわたり、皆様からご協力いただいた救援金により紛争や自然災害など様々な危機に直面する世界の人びとへ支援を届けています。

今年度、三重県支部における募集額は 1,326,393 円です。

(1/17 日現在)

今後も赤十字は国内のみならず、海外において苦しむ人びとも救うことを続けます。



子どものカゼ・インフルエンザには要注意！

市販の薬を服用するとき

15 歳未満の子どもが発熱して市販の解熱剤を服用するときは、アセトアミノフェン系の「小児用」と明記されたものを使用してください。大人用を服用すると、急性脳炎をおこす危険があります。薬局等では、子どもの年齢と症状を薬剤師に伝えて相談しましょう。

インフルエンザにかかったとき

突然の高熱(38℃以上)、全身倦怠感、筋肉痛や関節痛などの症状が見られたときは、インフルエンザの可能性があるので、できるだけ早く医療機関を受診しましょう。抗インフルエンザウイルス薬は、発症後 48 時間以内の使用が効果的です。感染力が強いので、周りの人にうつさないよう、マスクをして行きましょう。インフルエンザを発症した場合の学校の出席停止期間は、発症した後(発熱の翌日を 1 日目として) 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日を経過するまでとなっています。

詳しくは厚生労働省のインフルエンザ対策ページをご覧ください。(http://www.mhlw.go.jp/)



四日市献血ルーム「サンセリテ」移転開設！

開所日時 令和 2 年 2 月 1 日(土) 12:00

場 所 ララスクエア四日市 5 階

受付時間 *成分献血
10:00～11:00 / 13:00～17:00

*400mL・200mL 献血
10:00～11:45 / 13:00～17:30

定休日 *年末年始(従来定休日の火曜も受付!)
*入居施設休館日



イメージ新!
カフェのような空間で
お出迎えします!



★ぜひお越しください★

あなたの「救いたい」思いを赤十字に 一遺贈・相続財産等のご寄付一

近年、「自分が亡くなった後、これまで築いた財産の一部を赤十字に寄付したい」といったご相談や、大切な方を亡くされたご遺族から、「故人の遺産を社会のために役立ててほしい」というお申し出を多くいただいております。

日本赤十字社では、このような尊いご意思に応えるために、遺贈(遺言によるご寄付)、相続財産等のご寄付を承っております。

遺贈に関するお問い合わせ・資料請求については日本赤十字社三重県支部組織振興課(TEL 059-227-4145)までご連絡ください。

